

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3270400595
法人名	社会福祉法人 出雲南福祉会
事業所名	グループホーム寿生の丘
所在地 (電話番号)	出雲市大津町3622-15 (電話) 0853-30-6212

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成20年10月1日	評価確定日	平成20年11月2日

【情報提供票より】(20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 2 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	14 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 9.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	一部 2 階建て	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	0	
食材料費	朝食	380 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,380 円			

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寿生病院、塩冶川田歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

系列の医療法人と同法人で、病院、老健施設など、医療及び福祉に関する複数の事業が展開されており、これら事業所との連携も密にとるなど、医療・保健・福祉の一体となったサービス提供がなされ利用者が安心して生活できる基礎ともなっている。
高齢者に対し、安心して暮らせるよりよいケア環境を提供したいというホーム開設に至った経緯とも併せ、管理者、職員からは認知症のケアに対する熱意と情熱が感じられ、職員の声掛けや対応、利用者の表情や行動など、共に支え合いながら生活している場面が多く見られたことから、このホームの質の高さが窺える。
利用者は年々重度化はしているものの、事業所は年々明るくなっている印象を受ける。利用者の笑顔やいきいきとした生活ぶりからも、提供されているケアの質の高さを窺い知ることができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価での課題はないが、運営者、管理者、職員ともに、評価の意義を充分理解し、自己評価及び外部評価を通して、より一層の質の向上と、更に良いケア提供に向け積極的に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	理念に基づく運営を行う、或は理念を具現化するために、評価項目を職員全員が理解し、点検する課程と、その目的を共有化することにより、より高い質の確保に向けて、継続的、積極的な取り組みが展開されている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎に開催される運営推進会議ではホームでの取り組みや状況等の報告を行い、運営理念への理解を得ることも含めて積極的な働き掛けがなされている。 推進会議で得られた情報や意見等はホーム内で共有化を図るとともに、家族等への周知もなされており、ホームの運営に反映させる積極的な取り組みがなされている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、担当者が利用者個々の生活状況や健康状態等を記載した報告書を作成し、家族等に送付し状況報告を行っている。これに対し、家族等の意見や要望なども送付されてくる取り組みもなっている。家族の面会時には無理なく意見・要望などを引き出す声掛けや相談がなされ、意見箱の設置や、第三者委員も複数選任されており、また、出された意見や要望などは職員で話し合い共有し、前向きに受け止め、運営に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、公民館行事や、自治会活動であるクリーン作戦への参加、また学生の受け入れなど、地域との連携を図るため、積極的に活動を行い、地域密着への取り組みがなされており、地域の保育園との交流や、老人クラブとの繋がりも深まっている。利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らしつつつけられるよう、事業所が地域の中の一員として、地域活動や住民との関わりを持ちつつ、運営推進会議などを通し、また関連する事業所等と協同して、事業所自体が地域で必要とされる活動や役割を、より積極的に担うよう取り組まれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「まず第一に、利用者の生命を尊びその尊厳と人権を尊重し…」というホーム独自の理念があり、これを基として、「利用者の主体性を尊重し、共に過ごし笑顔が見られる生活を目指します。」といった当該年度のケア目標が定められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の具現化に向け、年度ごとのケア目標について定例の職員会議、ユニット会議でも話し合いがなされ、共有を図るシステムが構築され、職員は認知症ケア専門士として、全員で認知症ケアを推し進めていこうとする積極的な姿勢が見受けられる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、公民館行事や、自治会活動であるクリーン作戦への参加、また学生の受け入れなど、地域との連携を図るため、積極的に活動を行い、地域密着への取り組みがなされており、地元の保育園との交流や、老人クラブとの繋がりも深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価では、改善課題項目はなかったものの、運営者、管理者、職員ともに、評価の意義を充分理解し、自己評価及び外部評価を通して、より一層の質の向上と、更に良いケア提供に向け積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催しており、運営状況、サービス提供状況等報告している。またこの会議を、次の行動目標の設定となる場として活用し、ホームのサービスの質向上の糧として開催する一方、より地域との連携を図るものとしても捉え、取り組んでおり、会議の内容は会議メンバー以外の家族にも周知されている。		

島根県 グループホーム寿生の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の居宅介護支援事業所等と協働して、地区の担当包括支援センター・他事業所等への情報提供等もなされている。行政主催のグループホーム連絡会への参加協力はされており、依頼があった事業や見学には積極的な受け入れや対応がなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当者が利用者個々の生活状況や健康状態等を記載した報告書を作成し、家族等に送付し状況報告を行っている。これに対し、家族等の反応も増えており、下記項目と併せ、家族の意向を聴取し反映させる取り組みともなっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も設置され、第三者委員も複数人委嘱がなされている。家族の面会時には無理なく意見や要望を言える声掛けがなされ、また担当職員から毎月、個々の利用者の状況などを記した便り(連絡表)が送付されるなどの工夫も見られ、家族からの、意見や要望なども含めた返信も残されており、これをケアに生かす体制も作ら		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	周囲の人を和ませるような雰囲気を持った職員といった認知症高齢者のケアに適した職員、同法人の老人保健施設で認知症の現場を経験した職員を配置し、ケアの統一を図ることで、利用者へのダメージを軽減するなどの配慮がなされている。加えて、ホーム自体の職員の異動・退職は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	規程に新人研修と継続研修のあり方は明示されており、外部研修会には積極的に参加し、復命研修も都度実施、全職員への周知徹底が図られている。系列法人で大きな研修会も開催され、研修委員を決めての勉強会も実施し、資格を持ち経験ある職員がスーパービジョン形式の(復命)研修を行うなどの取り組みや工夫も見られる		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の連絡会に加入し、情報を得ているとともに、地域で小規模のグループホームの連絡会を構築、連携を図り、事業所見学や研修を実施し、情報交換を通して新たなケア方法を模索するなど、ケアの質の向上に向けた積極的な取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学を行ったり、自宅に行き馴染みの関係を作ってから入居してもらうよう、また、家族とも相談し、協力を得ながら安心してホームでの生活に馴染んでもらうよう努めている。古民具調の茶箆箆をホールに置いたりし、手作りのベンチカバーや暖簾などからもホームを馴染み易い雰囲気にしようとする努力が感じられ、温かさもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、利用者を尊重するように全職員が意識統一を図り、利用者主体のゆっくりとした時間、穏やかで暖かい生活が送れるよう、ケア提供がなされている。調査日にも利用者が職員を気遣うような光景もあり、利用者との良好な関係を窺い知ることができた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや望まれる生活を聴き、意向に添うように努めている。加えて、本人の意向把握が困難な場合には、あくまで“利用者主体”に主眼を置き、家族から意見を聞いたり、日々の生活の中から、本人の希望や意向を導き出すよう努め、決して職員の一方的判断とならないよう注意している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者に対して2名の担当職員を決め、本人や必要に応じて家族や関係者とも意見交換・検討を行い、“望む生活”“あるべき人生”を実現するための課題を抽出し、介護計画が策定されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書の期間終了時(3ヶ月ごと)に加えて、状態が変化した時など、必要時には都度ケアカンファレンス実施し、課題ごとに検討・協議がなされており、モニタリングを通しての介護計画の見直し、策定を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空き部屋を利用しての短期入所も実施されており、本人や家族等の状況に応じて、事業所内での医療に関わる緊急対応や通院支援、買い物や外出支援、送迎等、必要な支援には柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人・家族の希望に沿い、かかりつけ医にも受診ができ、加えて、利用者本人及び家族に確認・同意を得た上で、利用する協力医療機関を確保しており、医療機関と常時連絡が取れるような体制が取られており、家族との連携も密に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、かかりつけ医等と連携を図り、十分な話し合いの上で方針の共有を図り、対応する体制が取られ、ターミナルケアを行った結果、体制はより強固なものになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	衣服の乱れや汚れがあればそっとカバーするような対応がなされており、排泄介助の際もプライバシーが守られ、居室に入る時は必ずノックや声掛けがなされている。また、本人の「現実」を否定しないよう、全職員が意識統一を図って対応しており、加えて、個人情報に関しては十分に配慮し取り扱いがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の着衣や髪型(色)等は、個々の好みに応じた個性的なものであり、利用者のペースに合わせた、利用者主体のケアが見て取れ、職員のヒアリングからも、職員の都合にではなく、利用者一人ひとりの意向を捉えた上でのケアの有りよう、柔軟な対応が窺えた。		

島根県 グループホーム寿生の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けは、利用者が中心となり、職員と共に、下ごしらえ、盛り付け、配膳、或いは後片付け等、それぞれが自分ができる範囲で進んで、楽しそうに行っていた。、食事も職員は利用者と同テーブルにつき、世間話などをしながらの和やかな食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する人や朝風呂の利用、夕食後(就寝前)の入浴など、利用者の希望に合わせて実施されている。また、夏場は回数を増やすなどの配慮もなされており、拒否がある利用者に対しては、無理のないタイミングでの誘導がなされ回数も確保されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの個人因子を捉え、利用者の得意なことを実現できる場、役割を果たせる場をつくり、“あるべき人生”の実現に向けての取り組みは評価できる。また、隣接のケアハウス等の行事や、地元公民館行事へ参加したり、行事外出等、楽しみごと、気晴らしの支援も積極的になされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前にも増して、ドライブでの外出実施やスーパーでの買い物、また、喫茶店やレストランに出掛けており、墓参り等も含め、利用者の希望に合わせて柔軟な対応がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の理由により施錠されているものの、日中は施錠されることなく全戸が開放され、利用者、家族、来訪者ともに自由に出入りすることができる。当日も、利用者をはじめ、家族など、自由に出入りする場面が見られた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得、隣接の老人保健施設、デイサービス等と共同で定期的に防災・避難訓練を行っており、非常時には関連施設の協力が得られる体制整備がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1,500ml以上を目標としており、食事は栄養士による献立により提供されている。利用者それぞれの状態や咀嚼能力等に合わせ、食事形態は柔軟に対応している。食事・水分摂取量は利用者個々にチェックし把握し、夏場の脱水も無い。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、ベンチや畳敷きのスペース(コーナー)も設置されており、廊下には玄関先にもベンチが置かれ、藤製の衝立を配置するなど、出来る限りセミパブリックなスペースを確保しようとする取り組みがなされている。花や壁飾りなども季節感が感じられ、ベンチカバーや暖簾も利用者が作成したものであり、暖かく心が和む印象であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望で、ダンスをはじめ、仏壇、冷蔵庫等の持ち込みが行われており、個性的な空間づくりがなされているとともに、利用者自身の趣味的活動を活かした生活感を感じさせる、思い思いの空間が作られている。		